第 66 回静岡県芸術祭（2026）文学部門文芸コンクール審査員寸評

【創作】

本年は児童文学9編、小説は18編であった。児童文学は大人の読者にも耐えられる秀逸な作品があり、小説も深い主題を扱って心に届く作品があった。応募された作品の一編一編が心のこもった作品であり、作者の熱意が伝わってきた。これからも児童文学、小説においてすばらしい作品が創造されるように願っている。（土屋　智宏）

【エッセイ】

評論3点、随筆16点はテーマも幅広く、それぞれの作品に作者の個性や人生そのものが色濃く反映されていました。戦争の思い出、近親者の死、人と人との繋がり、自然との対話、仕事への取組み等々、重いテーマを素直な文章と構成力で読ませる秀作が多く、審査員一同、審査に苦慮しながらも大いに楽しませていただきました。（小長谷　建夫）

【戯曲・シナリオ】

今年の応募作品は、戯曲5編、シナリオ4編、若い方から年配の方まで幅広い世代からの参加で、個性的で創造性溢れるものばかりでした。舞台や映像で表現されることをイメージしてつくられていく中でも、一つの文学作品として、明確なメッセージを様々な表現で伝えようとしている作品が印象的でした。（大石　敦史）

【詩】

応募数は昨年と同数でした。主に自分の生活を見つめ、振り返る詩が多かったように思います。独得な発想、個性的な表現を用いた詩が多かったと思います。様々な方の思いが詩という表現として描かれ、楽しく詩を書かれているという思いが伝わってきました。暖かな愛をテーマにした詩が多かったように思いました。（吉田　義昭）

【短歌】

短歌部門の応募作品は63作品。内容も詠み方、調べ、言葉も様々だ。全て詠む人の個性だが、こんなに多様な表現を受け入れる短歌形式に驚いた。芸術祭では5首一組の応募となる。連作に挑戦してもいい、バラバラでも構わない。バラバラなものがまとまることもある。皆さんの個性を短歌に託して、発表してみて下さい。（松本　由利）

【俳句】

静岡県俳句協会の平均年齢は80歳程度で若返りをと会員を鋭意募集中です。芸術祭俳句部門の応募者は70代が中心でした。一方で、今回の特徴は新仮名使いの応募者が3割近くいたことです。俳句は敷居が高いと口にされる方がいますが、俳句はあくまでも庶民の詩です。自然と共に生きる自分の感動をどう言葉で言い表すか。楽しみつつ挑戦しましょう。（間島　あきら）

【川柳】

今年の応募は45件と、例年と同じくらいの応募数でした。5句組の連作は、日ごろの句会や大会とは違ってむずかしさがありますが、しかし同時にまた表現の幅が拡がるといった面白さもあります。来年以降も多くの方に意欲的に挑戦していただきたいと思います。（石川　柳寿）